

「外国語の言語材料」の学校段階別一覧表

	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語	高等学校 英語コミュニケーションⅠ
音声	次に示す事項のうち基本的な語や句、文について取り扱うこと。 (7) 現代の標準的な発音 (4) 語と語の連結による音の変化 (9) 語や句、文における基本的な強勢 (エ) 文における基本的なイントネーション (オ) 文における基本的な区切り	次に示す事項について取り扱うこと。 (7) 現代の標準的な発音 (4) 語と語の連結による音の変化 (9) 語や句、文における基本的な強勢 (エ) 文における基本的なイントネーション (オ) 文における基本的な区切り	(7) 語や句、文における強勢 (4) 文におけるイントネーション (9) 文における区切り
文字及び符号／符号	(7) 活字体の大文字、小文字 (4) 終止符や疑問符、コンマなどの基本的な符号	感嘆符、引用符などの符号	(7) コンマ (4) コロン、セミコロン (9) ダッシュ
語、連語及び慣用表現	(7) 1に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる、第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に取り扱った語を含む600～700語程度の語 (4) 連語のうち、get up, look atなどの活用頻度の高い基本的なもの (9) 慣用表現のうち、excuse me, I see, I'm sorry, thank you, you're welcomeなどの活用頻度の高い基本的なもの	(7) 1に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる、小学校で学習した語に1600～1800語程度の新語を加えた語 (4) 連語のうち、活用頻度の高いもの (9) 慣用表現のうち、活用頻度の高いもの	(7) 小学校及び中学校で学習した語に400～600語程度の新語を加えた語 (4) 連語 (9) 慣用表現
文及び文構造／文、文構造及び文法事項	次に示す事項について、日本語と英語の語順の違い等に気付かせるとともに、基本的な表現として、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。	小学校学習指導要領第2章第10節外国語第2の2の(1)のエ及び次に示す事項について、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。	小学校学習指導要領第2章第10節の第2の2の(1)のエ、中学校学習指導要領第2章第9節の第2の2の(1)のエ及び次に示す事項については、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。その際、(4)に掲げる全ての事項を、適切に取り扱うこと。
文	a 単文 b 肯定、否定の平叙文 c 肯定、否定の命令文 d 疑問文のうち、be動詞で始まるものや助動詞(can, doなど)で始まるもの、疑問詞(who, what, when, where, why, how)で始まるもの e 代名詞のうち、I, you, he, sheなどの基本的なものを含むもの f 動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものを含むもの	a 重文、複文 b 疑問文のうち、助動詞(may, willなど)で始まるものやorを含むもの、疑問詞(which, whose)で始まるもの c 感嘆文のうち基本的なもの	
文構造	a [主語+動詞] b [主語+動詞+補語]のうち、主語+be動詞+名詞/代名詞/形容詞 c [主語+動詞+目的語]のうち、主語+動詞+名詞/代名詞	a [主語+動詞+補語]のうち、主語+be動詞以外の動詞+名詞/形容詞 b [主語+動詞+目的語]のうち、 (a) 主語+動詞+動名詞/to不定詞/how(など)to不定詞 (b) 主語+動詞+thatで始まる節/whatなどで始まる節	(7) 文構造のうち、活用頻度の高いもの

		<p>c [主語+動詞+間接目的語+直接目的語]のうち、</p> <p>(a) 主語+動詞+間接目的語+名詞／代名詞</p> <p>(b) 主語+動詞+間接目的語+ how (など) to 不定詞</p> <p>(c) 主語+動詞+間接目的語+ that で始まる節／ what などで始まる節</p> <p>d [主語+動詞+目的語+補語]のうち、</p> <p>(a) 主語+動詞+目的語+名詞／形容詞</p> <p>(b) 主語+動詞+目的語+原形不定詞</p>	
	その他	<p>(a) There + be 動詞+～</p> <p>(b) It + be 動詞+～ (+ for ～) + to 不定詞</p> <p>(c) 主語+ tell, want など+目的語+ to 不定詞</p> <p>(d) 主語+ be 動詞+形容詞+ that で始まる節</p>	
文法事項		<p>a 代名詞</p> <p>(a) 人称や指示, 疑問, 数量を表すもの</p> <p>(b) 関係代名詞のうち, 主格の that, which, who, 目的格の that, which の制限的用法</p> <p>b 接続詞</p> <p>c 助動詞</p> <p>d 前置詞</p> <p>e 動詞の時制及び相など</p> <p>現在形や過去形, 現在進行形, 過去進行形, 現在完了形, 現在完了進行形, 助動詞などを用いた未来表現</p> <p>f 形容詞や副詞を用いた比較表現</p> <p>g to 不定詞</p> <p>h 動名詞</p> <p>i 現在分詞や過去分詞の形容詞としての用法</p> <p>j 受け身</p> <p>k 仮定法のうち基本的なもの</p>	<p>(イ) 文法事項</p> <p>a 不定詞の用法</p> <p>b 関係代名詞の用法</p> <p>c 関係副詞の用法</p> <p>d 接続詞の用法</p> <p>e 助動詞の用法</p> <p>f 前置詞の用法</p> <p>g 動詞の時制及び相など</p> <p>h 仮定法</p>

(参考) 小学校第3学年及び第4学年 外国語活動

(1) 英語の特徴等に関する事項

実際に英語を用いた言語活動を通して、次の事項を体験的に身に付けることができるよう指導する。

ア 言語を用いて主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知ること。

イ 日本と外国の言語や文化について理解すること。

(7) 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。

(4) 日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付くこと。

(9) 異なる文化をもつ人々との交流などを体験し、文化等に対する理解を深めること。

付録9